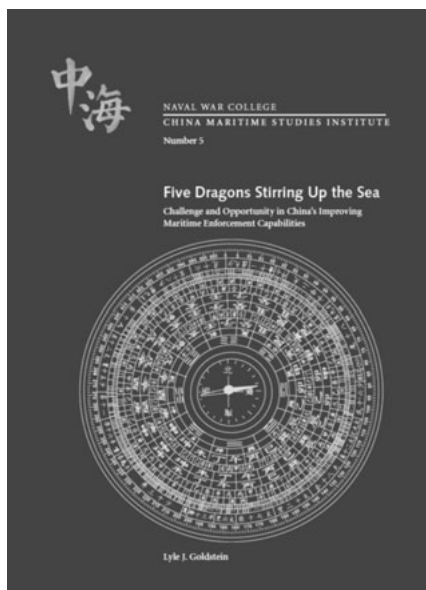


Five Dragons Stirring Up the Sea 5匹の龍が海をかき回す 中国の海洋取締能力の改善における挑戦と好機

http://www.usnwc.edu/Research---Gaming/China-Maritime-Studies-Institute/Publications/documents/CMSI_No5_web1.pdf

Lyle J. Goldstein



概要

中国の上昇は21世紀の国際安全保障のための最も重要な現象の一つだという広範な合意が得られるとして、中国の沿岸警備隊の組織、能力、活動の文化、あるいは見通しについてほとんど何も知られていないということは特段に奇妙なことである。米国の調査船と中国の海洋取締船（中国の漁船を横づけにしていた）の巻き込まれた2009年3月に起きた、広く注目された事件はまた、中国の非軍事的海洋取締の能力の主要点を際立って目立たせた。

一般に、沿岸防衛の事案は、またとりわけ非伝統的安全保障と呼ばれることに関する疑問は、中国の海洋関連の文脈の中において適切に調査されてきていない。沿岸管理と監視、港湾の安全保障、海賊、麻薬輸送、環境保護、そして捜索と救助に

ついでに中国の認識というものが、中国の外部において十分に理解され続けないと、東アジアの海洋勢力の間における協調はまた、低開発のままに留まるかも知れない。アデン湾で海賊対策作戦中にある他の海軍と合流する、かつて例のない2008年12月の中国海軍の配備は間違いなく正しい方向への重要な歩みである。しかし、非伝統的脅威に対抗する中で中国と共通の素地を見つけるため、更に多くのことを可能とし、またしなくてはならない。

今日、中国は海洋勢力の極めて重要な中間の領域において、比較的弱体に留まっている。その中間の領域とは、商業的な優れた能力と、一国家の固有の法律を執行し、海岸沖での「良好な秩序」を確かなものとする一海洋の統治に関する手堅い軍事力の間にある。過去10年を越える主要な改善に関わらず、中国の海洋取締当局は分極化し、比較的弱体な状態に留まっており一多くの中国専門家から、あまりに多くの「龍が海をかき回している」と見くびった調子で描写されてきた。北東アジアでは、中国の弱体な海洋取締能力は、特に日本の（あるいは、米国の領域外での）沿岸警備能力と比較したときには、格別である。実際、日本の沿岸警備隊は、それほどでないにしても、東京にとって第2海軍であるかに最近は言われている。

中国のこの分野での相対的な弱体性は不可思議であり、現在の研究の中心となる探究事項を形成するものの一つである。相対的弱体性のこの現状

はこの論文の最初の部分で概論されている。第二の部分は、今日の中国において海洋取締と統治に責任ある5つの最も重要な官僚機関のそれぞれの現在の状態を描写し解析する。この論文の第三の部分は、これらの存在及び将来の統一された中国沿岸警備隊が、中国海軍と何の関係を持つかの疑問を取り上げる。関連事項と見通しに転ずる前に、第四は、今日の中国の沿岸警備関連の弱体についての多様な巨視的説明を掘り下げる。第五部は将来の海洋安全保障の協調の可能性を、過去10年に亘る、沿岸警備隊関連の間での米国-中国の民事海洋の提携についてつづきに見ることによって解析する。最後の部分は、強化された中国の沿岸警備能力の3つの有りうる戦略的意味について詳しく述べる。この研究は、全般として、何百という中国語の資料と、中国での面談と、そして特に、

ヒ・ゾンロン教授と3人の他の学部の要員による、寧波にある国境警備海洋警察学校での、高度に詳細にわたり、かつ際立って率直な2007年の調査を元に描いている。

中国の沿岸警備部隊関連の、より首尾一貫し効率的な海洋統治の機関としての継続的發展は、東アジアの安全保障と安定性のための挑戦と好機の両方を提供することとなる。拡大された能力は当然、多数の隣国に面と向かった、中国の海洋権限の、より厳格な執行に帰着するだろう。しかしながら、より好都合な潜在的結果は、海洋の統治における、強化された中国の能力が、北京をして、成熟した活力のある「海洋におけるステークホルダー」として世界的な海洋の安全と安全保障の規範を支えることを喜んですることに帰着するかもしれないのである。

